

新医薬品産業ビジョン

～イノベーションを担う国際競争力のある産業を目指して～

(平成19年8月30日 厚生労働省)

中医協 薬-1-1
20. 9. 24

環境の変化

- ・生命科学分野の研究開発の動向（抗体医薬、分子標的薬）
- ・グローバル化の一層の進展（国際共同治験、政府レベルの研究開発国際競争）
- ・M&Aの進展
- ・関連産業の発展（ベンチャー企業の興隆、様々な受託業の増加）

医薬品産業の現状と課題

【現状】

- 日本市場における外国オリジンの医薬品のシェア拡大
- 「ドラッグ・ラグ」

【課題】

- 我が国医薬品産業の国際競争力は伸びていない
- 創業環境、市場そのものの国際競争力（＝国際的な魅力）も失われかけている

危機的状況

製薬産業

適正な規模への拡大、世界をリードできる領域の追求、競争力のある製品群の充実などの実現

- 世界の主要企業との新薬開発競争が可能。
- 新有効成分の少なくとも4分の1～3分の1を日本発とすることも不可能ではない。

製薬企業に向かう方向性

- ①メガファーマ
→少なくとも1～2社はグローバルメガファーマへ
- ②グローバルニッチファーマ
／グローバルカテゴリーファーマ
- ③ベーシックドラッグファーマ
- ④ジェネリックファーマ
- ⑤OTCファーマ + 医薬品ベンチャー、異業種

医薬品卸売業

- ①統合型
- ②特化型
- ③連携型
- ④新規複合型
- ⑤大衆薬特化型

機能分化・機能強化により経営の主体性の確立と取引の近代化、収益構造の多様化等
↓
卸売業者の規模の拡大、収益力の向上の見込み

医薬品小売業

- ・地域のヘルス・ステーションとしての確立
- ・地域医療政策への対応
- ・かかりつけ薬局としての役割
(在宅医療、後発医薬品の使用促進への協力)

医薬品産業政策の基本的考え方

- イノベーション主導型の新薬開発を促進するための産業政策
- イノベーション波及の効果に着目した産業政策

アクションプラン<5年間の集中期間>(2007～2011)

「革新的医薬品・医療機器創出のための5か年戦略」

+

後発医薬品市場・一般用医薬品市場の育成、流通機能の効率化・高度化も含めた総合的なアクションプラン

各種施策のフォローアップ

「医薬品産業政策の推進に係る懇談会」
「革新的創薬のための官民対話」

産業の将来像(10年後)

アクションプラン